



平成30年度 桃山小学校 第1回学校評価のご報告

まだまだ暑い日が続いております。日頃は本校の教育活動にご理解ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。6月20日の学校公開日の後に実施した「学校評価（保護者質問紙）」「児童質問紙」「教職員自己評価」の結果を総合的に分析して、今後よりいっそう推進すべき点や改善点について考察しました。以下に、限られた紙面ではありますが、ご報告させていただきます。

桃山小学校の教育目標

志をたて 共に未来を拓く子の育成
～ やさしく・かしこく・たくましく ～

目指す子ども像

夢中になって取り組み、挑戦する子
目標に向かい努力を続ける子
自分で考え、進んで行動する子
人と関わり、自分も相手も大切にする子

概要

本校では、昨年度より道徳を研究教科とし、「感謝」「勤労・公共の精神」を重点目標に学校教育活動を進めています。学校評価においては、学校教育目標に照らし合わせて、評価項目を設定しています。質問項目①から⑦は「やさしく」、⑧から⑫は「かしこく」、⑬から⑮は「たくましく」の目標内容に合うように設定しています。項目④では「感謝」、項目⑦では「勤労・公共の精神」について問う項目を入れています。また、学校教育目標の具現化を目指すために、教職員はもちろん、保護者や児童についても自己評価をする形式をとっています。例えば、保護者質問紙では、「わが子が～するように働きかけている」という表記にさせていただいています。

児童質問紙については、ほとんどの項目で80％から90％の児童が「できている」と答えています。自分の行動をふり返り、がんばっていることを意識できる機会となったのではないのでしょうか。

保護者質問紙は回収率87％でした。全体を通して実現度が80％以上の項目が多かったです。これは、本校の教育方針にご理解いただき、ご家庭でも児童への声かけや励ましをいただいているからこそと考えています。しかし、実現度が60％台の項目もありました。今後も学校と保護者が学校教育目標に向かって、協力し合って子ども達の心身ともに健やかな成長を目指していききたいと思います。

教職員自己評価についてはほとんどの項目で実現度が80％以上でしたが、実現度が低い項目もありました。今後の教育活動の取組内容や方法等について検討を重ねていききたいと思います。

今回の学校評価の結果やいただいたご意見などについては職員会議で取り上げて話し合いました。今後、子ども達に指導をしたり、取組内容の検討や見直しをしたりして桃山小学校の教育活動に活かしていきたいと思えます。お忙しい中、学校評価にご協力いただきありがとうございます。第2回学校評価は1月22日（火）の学校公開日の後に予定しています。

○学校評価（保護者・児童・教職員）の結果

※ 実現度は『よくできている』・『だいたいできている』を合わせた数値

No.	項目	児童 実現度	保護者 実現度	教職員 実現度
1	楽しく学校に通う。	92%	98%	100%
2	自分からあいさつをする。	90%	93%	83%
3	誰とでも仲良く協力する。	91%	95%	92%
4	「ありがとう」などの感謝の気持ちを伝え合う。	95%	95%	79%
5	学校の約束や決まりを守る。	92%	98%	96%
6	家庭での役割を決めてやり遂げる。 当番活動（給食・掃除など）をやり遂げる。（児童）	96%	65%	83%
7	身の回りの整理整頓をする。	81%	72%	74%
8	読書の習慣を身に付ける。 進んで本を読む。（児童）	87%	64%	86%
9	人の話をしっかり聞く。	91%	86%	79%
10	授業中に進んで発表する。 自分の気持ちや考えをみんなに伝える。（児童） 授業がわかるようにめあてを提示して達成できたか確認する。 （教職員）	78%	62%	91%
11	学習の基礎基本が身に付く。 学校の授業がわかる。（児童）	92%	84%	100%
12	学習の習慣が身に付く おうちで宿題や勉強をする。（児童）	86%	87%	95%
13	早寝早起きの習慣が身に付く。 児童は時間を守る。（教職員）	71%	77%	100%
14	好き嫌いなく食べる。	83%	82%	96%
15	子どものよさを認めほめる。 自分のいいところを知っている。（児童）	73%	85%	96%
16	困った時には先生に相談する。 児童に寄り添い、話を聞く。（教職員）	79%	90%	100%
17	安全に気をつけて行動する。	92%	97%	96%
18	積極的に外遊びやスポーツなどの運動をする。	86%	84%	88%

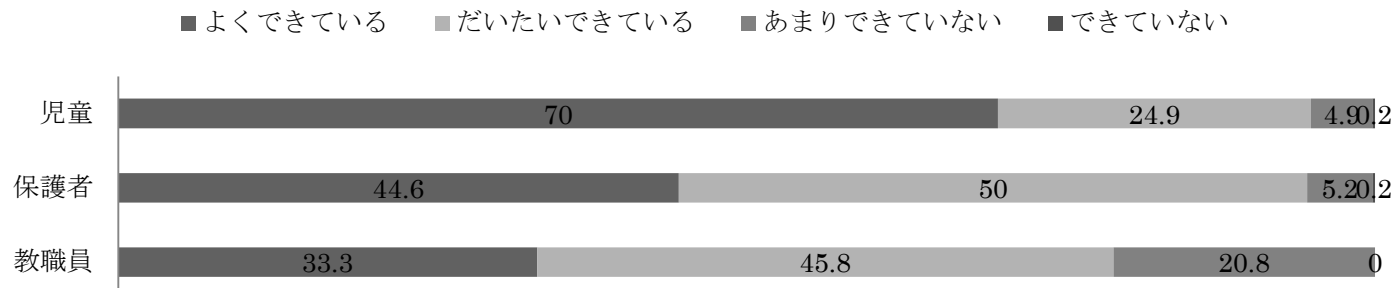
この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！



主な成果

これまで課題であった「あいさつ」については、昨年度から実現度が向上しています（項目②）。また、今年度の本校の取組の一つである「感謝」については、感謝の気持ちを伝えているという児童は95％であることがわかりました（項目④）。学校でも5月のクラスルームソーシャルスキルとして「ありがとうはまほうのことば」を掲げて取り組みました。自分が何かしてもらった時には素直に「ありがとう」を言うことができる子ども達が多いです。普段の生活の中で、様々な場面で多くの人に支えられていることに気づき、感謝の思いを抱くことのできる子どもを育んでいきたいと思います。

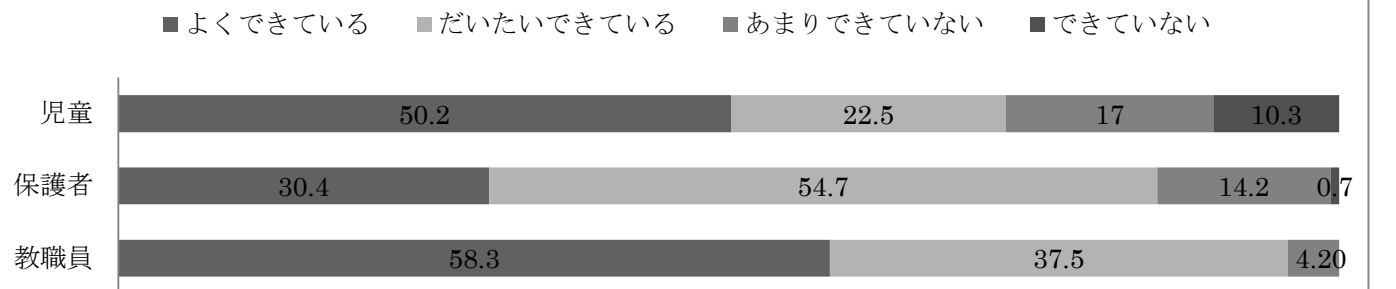
④ 「ありがとう」を言っている 感謝の気持ちを伝える



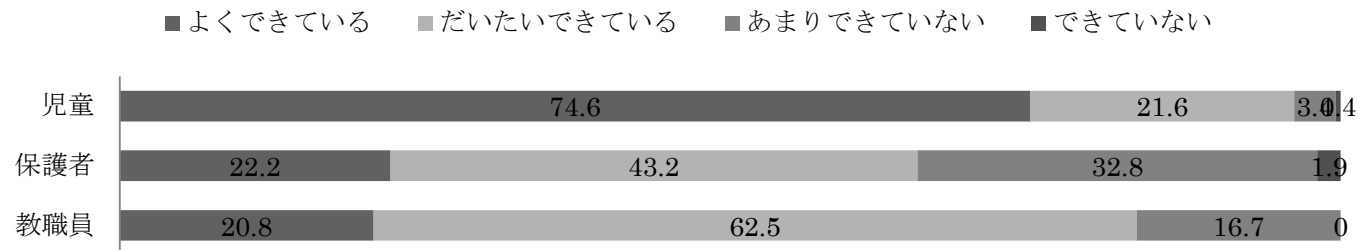
主な課題

「自分のいいところを知っていますか（項目⑮）」という問いについては、毎回のことですが今回も他の項目と比べると低い結果となっています。保護者質問紙からは、「わが子のよさを認め、ほめるようにしている（項目⑮）」ご家庭が多いことがわかります。子どものよいところを見つけてほめることは、子どもが自分のよいところに気づき、自信をもって、より良く生きようとする姿勢を育んでいくことにつながると考えます。「当番活動（給食・そうじなど）を最後までやりとげていますか（項目⑥）」で96％の児童ができていますと答えています。学校では児童が自分の役割を果たすことで充実感や達成感を感じられるように学習活動を展開していきたいと考えています。「家庭での役割を決めてやり遂げるように働きかけている」という保護者は65％でした。ご家庭でもお手伝いや仕事などができた時には、子どもが自己肯定感を高められるような声かけをよろしくお願いします。

⑮ 自分のいいところ 子どものよさを認める



⑥ 当番活動をやり遂げる 家庭での役割をやり遂げる



☆自由記述より

「楽しい学校生活を送っています。」「参観日が楽しみです。」といううれしいご意見がたくさんありました。また、複数の方から、学校だけに任せるのではなく、保護者も地域も一緒になって子ども達を育てていきたいといった趣旨のご意見をいただき、大変有り難く思っています。教職員一同、期待に応えることができるように、今後も教育活動の改善を進めていきたいと思ひます。

『安全面』については、「集団登校がないのはなぜでしょうか」「集団登校の必要性を感じます」と集団登校についてのご質問・ご意見をいただきました。登下校時には、交通安全ボランティアの方々をはじめ、PTAの本部役員や地域委員さんなど保護者の皆様のおかげで、これまで大きな事故なく過ごせております。暑い日も雨の日も見守っていただき本当に有難く感謝しております。ご承知のように、桃山小学校区の通学路では、歩道やガードレールなど、車道と歩道を区分する施設が十分に整備されているとは言い難く、これまでの事例から、集団登校により大事故の危険度が高い通学路であると認識しています。このため、登校中に児童が滞留する時間が長い交差点への車止めの設置や、ドライバーに注意を促す電柱幕の新設など、行政に働きかけハード面での安全対策を少しずつ実現してまいりました。1年生の交通安全教室の充実や、町別児童会の際に通学路の危険個所の確認など、今後も主体的に身を守るための安全指導を継続しています。ご家庭や地域でも子ども達を見守っていただけたらと思います。また、お気づきのことがありましたら、学校にご連絡ください。

『学習面』では、「自主学習が始まり、少しずつできる日を作りたい。」というご意見がありました。本年度は自主的に計画して学習を進められるように、自主学習や自由勉強を家庭学習にも取り入れています。ご家庭でもご協力いただくことがあると思いますが、どうぞよろしくお願いします。

『PTA活動』については、「仕事をしている保護者の負担が少なくなるためにスリム化してはどうか。」というご意見がありました。役員の方々をはじめ、PTAの皆様には子ども達のために様々な活動にご尽力いただき本当にありがとうございます。毎年、役員が代わられるので引き継ぎ等大変な部分もありますが、「少しの思いやりと気遣いで、お互いの気持ちが繋がると笑顔になる」と協力して進めていただいています。できることを無理なく進められるよう、工夫して具体的にスリム化を検討していきたいと思ひます。「学校や地域がよりよくなるよう、少しでも協力させていただけたらと思ひます。」という心強いご意見もいただいています。ありがとうございます。

その他、「保護者の方で名札をつけていない方が多い。」「学校の前まで車で送迎されている方がいる。」というご指摘もありました。防犯・交通安全面からもご考慮いただき、ご理解・ご協力をよろしくお願いします。

学校運営協議会より

今回の学校評価の結果については8月3日（金）の学校運営協議会にて、ご意見を頂戴しました。児童・保護者・教職員の結果に差がある項目は、考察していく必要があることや、家庭で子どもがお手伝い等をした後には大人が「ありがとう」やほめ言葉をかけること、家庭でも読書の習慣づけをすることが大切だということも話し合いました。学校と家庭と地域が同じ姿勢で子ども達を育てていきたいと思ひます。